日本学術振興会賞　日本学士院学術奨励賞　第8回授賞式

活躍が期待される若手研究者24名

今回で8回目となる日本学術振興会賞と日本学士院学術奨励賞の授賞式が2月27日、秋篠宮同妃殿下ご臨席のもと、東京・上野の日本学士院で行われた。冒頭に行われた日本学術振興会賞授賞式では、安西祐一郎・日本学術振興会理事長が式辞を述べ、江崎玲於奈、審査委員長が審査経過報告をした後、24人の受賞者に、賞状、賞牌のほか、副賞として研究奨励金一〇万円が贈呈された。続いて行われた日本学士院学術奨励授賞式では、久保庄彰・日本学士院長の式辞の後、竹市雅俊・選考委員会委員長による審査経過報告が行われた。受賞者6人には、賞状、賞牌および副賞として記念品が授与された。また、秋篠宮殿下がお言葉を述べられたほか、平野博文・文部科学大臣が祝辞を述べた。最後に、受賞者を代表して東京医科歯科大学難治疾患研究所の西村栄美教授が挨拶した。

秋篠宮同妃殿下ご臨席のもと行われた授賞式

式辞　安西祐一郎・日本学術振興会理事長

新しい研究手法の確立など それぞれの学問分野で業績

本賞は、各分野における45歳未満の優れた業績を挙げた若手研究者の方々を顕彰するものです。本年は第8回になります。

学術研究は、研究者の知的関心と探求心から発生し、そして、国の枠を超えて人類全体の福祉の向上に貢献するためにも、幅広い学術研究を推進していくことが求められています。

昨年3月11日に東日本大震災が発生し、甚大な被害をもたらしました。今後の復興に向けて、学術の高たる叡智は大変大きなものであると思います。このような中で、我が国の学術研究を支える日本学術振興会と日本学士院が協力して、人文社会科学、自然科学、生命科学の各分野における多くの分野から優れた研究者を顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を促進していくことは、大変意義深いものであり、学術に携わる多くの研究者の励みになることと考えます。

そして、若い世代の方々が業績をあげていくことは、学術の発展を通じて、その成果を国民の福祉に役立てることを望む国民にとって大変喜ばしいことであります。

皆さんの志が高く、国際的に学術研究の進展がより一層深まりますことを心より願い、私の挨拶とします。

式辞　平野博文・文部科学大臣

日本学術振興会と日本学士院学術奨励賞は、優れた若手研究者を支援・奨励するこれまでの功績を称えるとともに、研究の発展に対しまして、深くお祝いと感謝の意を申し上げます。

学術研究は国の国力の源泉となるものであり、高い学術水準の維持・向上、そして医療の発展などについて、我が国の学術の発展に向けた多彩な貢献を期待しますとともに、受賞者の皆様方の今後ご活躍を祈念申し上げます。

文部科学省としましても、世界に誇るグローバル人材の育成に向けまして、科学研究費補助金をはじめとする優れた若手研究者を顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を促進していくことが求められています。

昨年3月11日に東日本大震災が発生し、甚大な被害をもたらしました。今後の復興に向けて、学術の高たる叡智は大変大きなものであると思います。このような中で、我が国の学術研究を支える日本学術振興会と日本学士院が協力して、人文社会科学、自然科学、生命科学の各分野における多くの分野から優れた研究者を顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を促進していくことは、大変意義深いものであり、学術に携わる多くの研究者の励みになることと考えます。

そして、若い世代の方々が業績をあげていくことは、学術の発展を通じて、その成果を国民の福祉に役立てることを望む国民にとって大変喜ばしいことであります。

皆さんの志が高く、国際的に学術研究の進展がより一層深まりますことを心より願い、私の挨拶とします。

秋篠宮殿下お言葉

表彰を契機に国際的な活躍を

本日は、第8回日本学術振興会賞ならびに日本学士院学術奨励賞授賞式が開催され、皆様にお会いできたことを喜ばしく思います。初めに今回授賞されました24名の方々に心からお祝い申し上げます。皆様にはかねてより、それぞれが専門とする分野において、研究活動に取り組まれ、大変優れた業績をあげられた結果であると思います。その成果は、人類共通の知的財産を形成するものであり、医療の進歩、産業や経済の発展、生活の利便など、多様なかたちで活用されています。社会がこれらの恩恵を享受できますのは、皆様方一つの契機として、さらに意欲的に研究を進められ、国際的に貢献していくことを期待しています。

学術研究は、研究者の知的関心と探求心から発生し、そして、国の枠を超えて人類全体の福祉の向上に貢献するためにも、幅広い学術研究を推進していくことが求められています。

昨年3月11日に東日本大震災が発生し、甚大な被害をもたらしました。今後の復興に向けて、学術の高たる叡智は大変大きなものであると思います。このような中で、我が国の学術研究を支える日本学術振興会と日本学士院が協力して、人文社会科学、自然科学、生命科学の各分野における多くの分野から優れた研究者を顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を促進していくことは、大変意義深いものであり、学術に携わる多くの研究者の励みになることと考えます。

そして、若い世代の方々が業績をあげていくことは、学術の発展を通じて、その成果を国民の福祉に役立てることを望む国民にとって大変喜ばしいことであります。

皆さんの志が高く、国際的に学術研究の進展がより一層深まりますことを心より願い、私の挨拶とします。

お言葉を述べられる秋篠宮殿下

若手研究者の大きな励み

日本学術振興会と日本学士院が、引き続き、このような顕彰をはじめとして、我が国の学術の発展に向けた多彩な貢献を期待しますとともに、受賞者の皆様方の今後ご活躍を祈念申し上げます。私の挨拶とします。

受賞者代表あいさつ

この上ない名誉な賞 周囲の方々の御支援で

西村栄美・東京医科歯科大学難治疾患研究所教授

本日はどもの研究成果に対して、この上なく名誉な賞をいただき大変恐縮に存じます。江崎審査委員長はじめ日本学術振興会理事長、先輩方、皆様、温かい激励の言葉を賜り、真にありがとうございます。

さて私は、生方、そして私どもを指導してたくさんの先生方、皆様方にご厚情を賜りまして、深く感謝いたします。

私は、マウスやヒトで見られる遺伝子の機能を調べる技術を大学院で進み、皮膚や毛髪に特異的に発現する細胞の発生を制御する遺伝子を同定しました。その結果、皮膚の毛髪の形成に必要な細胞が維持できなくなると色素細胞が増殖することを発見しました。色素細胞が生じた後、皮膚の毛髪の形成に必要な細胞が維持されて、毛髪になることが証明されました。色素細胞が生じた後、皮膚の毛髪の形成に必要な細胞が維持されて、毛髪になることが証明されました。色素細胞の発生に関する研究を進めるとともに